



JIC インフォメーション

第 166 号 2011 年 04 月 10 日

年 4 回 1・4・7・10 月の 10 日発行

1 部 500 円

発行所: JIC 国際親善交流センター 発行責任者: 伏田昌義

<http://www.jic-web.co.jp>

東京オフィス: 〒160-0004 東京都新宿区四谷 2-14-8 YPC ビル 7F

TEL: 03-3355-7294 jictokyo@jic-web.co.jp

大阪オフィス: 〒540-0012 大阪市中央区谷町 2-1-22 フェアステージ大手前ビル 5F

TEL: 06-6944-2315 jicosaka@jic-web.co.jp

頑張れ ニッポン 負けるな 元気を取りもどせ! ロシアからも続々応援メール

ロシア・旧ソ連

国際交流誌



旅行・留学のお問い合わせはいつでもお気軽にJICへどうぞ!
<http://www.jic-web.co.jp>

— サンクト・ペテルブルグ エルミタージュ美術館 —

✈️ ロシア旅行のシーズン到来!!
Наступил сезон поездки
в Россию!!
🐶

東日本大震災

頑張れ! ニッポン! 負けるな! 元気を取りもどせ!・・・2P

「文化が奏でるロシア ～演劇、映画、若者」

JIC ロシアセミナー講演録 村田 真一・・・3-11P

「神戸市外国語大学語劇祭」

河本恵美子・・・12P

<連載>「エクメネの最果てへ」—サハ共和国 冬の旅—

岡本 健裕・・・13-15P

JIC 情報・・・16P

東日本大震災**頑張れ! ニッポン!
負けるな! 元気を取りもどせ!****ロシアからも続々応援メール**

3 月 11 日に発生した東日本大震災は、岩手、宮城、福島など東北地方を中心に、地震と津波による甚大な被害をもたらしました。4 月 5 日現在、犠牲者は死者 12,431 名、行方不明者 15,153 名と阪神大震災(96 年)を上回る最悪の大災害となりました。しかも津波によって家族ごと行方不明になっているケースもあり、被害の全貌はなお明らかになっていません。

さらにこの大地震に起因して発生した福島第一原子力発電所の事故は、外部電源、緊急電源がすべて失われたため、緊急停止した原子炉の冷却が進まず、3 基の原子炉が燃料棒の一部溶融を起こし、使用済み燃料が再加熱して火災が発生するなど、放射能災害の危険をともなう重大な事故に発展しました。関係者の必死の復旧作業が続いていますが、事態はなお予断を許しません。

大災害に対して、日本中の人々が胸を痛み、「何か自分にできることはないか」と、募金活動やボランティア活動に取り組んだり、またそれぞれの得意分野で貢献をしようと動き出しています。私たちも、旅行や留学を通じた日常業務を通じて、この大災害からの復興の仕事に合流したいと思えます。

地震の発生直後から、世界 130 か国以上の国が何らかの形で日本への救援を行い、各国で多くの人々が日本のために祈り、チャリティや募金活動を行なうなど、激励の声を届けてくれています。大災害にもかかわらず、多くの日本人がきわめて冷静かつ勇敢に行動し、互いに助け合っこの難局を乗り越えようとしている姿は、世界中の人々から賞賛をもって見つめられています。私たち JIC にも、ロシアをはじめウクライナ、ベラルーシ、カザフスタンなど、50 社以上の取引先や友人たちから見舞いと激励のメールが届きました。私たちも地震災害の実相と復旧にむけた日本の取組みを少しでも正確に知ってもらいたいと、震災直後からロシア語緊急マルマガを発信し、ロシア語圏の友人たちに送り続けています。

日ロ交流の分野では、ロシア文化フェスティバル組織委員会の呼びかけにより、7 月 7 日に千葉市において「ピャトニツキイ・ロシア民族合唱団」によるチャリティコンサートが、日ロ協会、日ロ交流協会、日本対文協、国際親善交流センターの共催により開催されます。コンサートの収益金および募金はすべて、被災地の復興支援に寄付されます。

皆様のご協力を是非ともお願いいたします。

以下は、ロシア日本協会から震災 2 日後の 3 月 13 日に届いたメール(抄訳)です。

日本ロシア協会からの激励メール

今回の大悲劇の犠牲者の方々に心から哀悼の意を表明します。JIC および JIC の身近な方々は全員ご無事でしょうか。大変心配しております。東京が受けたダメージは東北地方と比べてずっと少ないと聞いておりますが、それでも念のため無事である事をお知らせ下さい。

この未曾有の大震災に冷静かつ勇敢に立ち向かう日本の人々に対して誇らしい感情さえ覚えてしまいます。この悪夢が一刻も早く終わりを迎え、平和な生活が 1 日も早くもどってくるように、祈っています。

旅行業はしばらくの間、大変困難な時期を迎えますが、危機を乗り越えて、一緒に日露間の旅行交流の復興に力を尽くしたいと考えております。私たちの信頼すべきパートナーである JIC に心をこめて!

ロシア日本協会

I・ロマネンコ(理事長)、E・クルチーナ(事務局長)

**ピャトニツキイ・ロシア民族合唱団
東北地方太平洋沖大地震被災者救援
チャリティコンサート**

日時;7 月 7 日(木)18:30 開場、19:00 開演

会場;京葉銀行文化プラザ音楽ホール(千葉駅前)

特別料金;1000 円(救援募金箱設置)

芸術監督;アレクサンドラ・ペルミャコワ

指揮;ニコライ・ガヴリロフ

プログラム;母なるロシア、カチューシャ、さくら、陽気なおしゃべり、ポーリュシュカ・ポーレなど、全 30 曲。ピャトニツキイ・ロシア民族合唱団は、創立 100 年の歴史を誇るロシアでもっとも実力と人気を備えた合唱団。美しいハーモニーとともに、ロシアの伝統舞踊や民族楽器の演奏をお楽しみ下さい。

主催;ロシア文化フェスティバル日本組織委員会、日ロ協会、日ロ交流協会、日ロ文化交流センター、日本対外文化協会、国際親善交流センター



チケットのお求めは、JIC 国際親善交流センターまで
TEL; 03-3355-7294 FAX; 03-3355-7289
E-mail; jictokyo@jic-web.co.jp

JIC ロシアセミナー講演録 (2010 年 11 月/東京)

文化が奏でるロシア

～演劇、映画、若者

村田 真一 (上智大学教授)

昨年 11 月 13 日、上智大学の村田真一先生を講師にお迎えして、JIC ロシアセミナーを東京で開催しました。以下は、その講演録です。当日の配布資料(末尾に収録)と併せて、ロシア文化の世界をお楽しみ下さい。なお、セミナーには JIC モスクワのジーマ君とその友人オリガさんも参加、ロシアの若者について発言してくれました。

今日は「文化」という、とらえどころのないテーマを取り上げました。文化というのは様々な分野について言われますね。言語文化、政治文化、経済文化、コミュニケーション文化、あるいは生活文化、といった具合です。文化を扱う上で、その概念規定が難しいのは、範囲が非常に広いということです。何が文化かと問われても、芸術や美術もあれば、社会の習慣もあるし、生活文化も入っています。私は、こうしたことすべてを含めて文化ととらえたいと思います。

私の専門は演劇です。とくにロシア演劇と、ヨーロッパあるいは日本の演劇とを比較して、研究しています。私は、文化というのは外国を研究する上で、非常に大切なポイントだと思っています。

「国や人種を超えて私たちは分かり合える」、あるいは「分かり合えなくてはいけない」、よくこういう意見が聞かれます。理想としては非常に素晴らしいことで、実現すればいいと思いますが、そのために何をしなければならないかという、私たちと私たちの外の世界の人たちとははっきり違うということをまず認識する必要があると思います。この違いを認識しない限りお互いに分かり合えないと思うのです。違いを認識した上で、グローバルな視点から一緒に何かをしていこう、あるいはそれぞれの文化を継承して発展させていこうというのであればいいでしょう。しかし、残念ながら、日本は約 150 年前に開国して以来、まだ考え方が根本的に変わっていないと思うのです。何でもかんでも外のものを受け入れようとか、あるいは最近では逆にこちら側から一方的に発信しようといった動きが見られるのですが、本当に他者を理解しているのかどうかという肝心なところでは、クエッションマークがたくさんつくと思います。この百年間、日本人の世界認識はあまり変わっていないのではないのでしょうか。

では、どうしたら文化というものに接近し理解することが

できるようになるのか。これはもう自分から主体的に文化に関わっていくことしかない。皆さんはロシア語を勉強されていますよね。ロシアに行ったことのある方も多いと思います。どのような形でもいいですから、外の世界を知るというのがまず最初のスタートです。今日はセミナーですから、皆さんの話も聞きながら、あるいはロシア人の方もいらしているので、後ほどロシアの若者文化についても、いろいろな意見を聞きながら進めていきましょう。

レアリア(言語外の現実)



では、まずロシア語を勉強するというのはどういうことでしょうか？たとえば、次のようなロシア語の対話があります。

(問)・ Куда вы идете? (あなたはどちらにいらっしゃいますか?)

(答)・ Я идю на завод (私は工場へ行きます)

これは正しいのでしょうか？ ソ連時代の教科書によくこんな会話文がありましたが、もし今使うとしたら、間違いが二つあります。一つは、「工場へ行く」という、そんな答えを言う人はあまりいないということと、もう一つ、Куда идете というのは、ヴィ(вы=あなた)に対して、やっぱりちょっと失礼な尋ね方で、職務質問か、あるいはわざわざ何かを確認しているような感じがします。トゥイ(ты=あなたの親しいくだけた言い方)であればいいですね。Куда ты идешь? (どこか行くの?) だったらいいのですが、「あなたはどちらにいらっしゃいますか?」だと、ちょっとロシア語の格好としてはおかしい。例えば、Вы далеко идете? (あなたは遠くに行くのですか)、こういう風に言った方が失礼ではない。とくに初対面だとか、あまり知らない人に対しては、こういう言い方のほうがよいでしょう。

ということで、ロシア語の勉強は、文法とか語彙、表現を身につけただけでは足りないのです。レアリアといいます。言語外の現実をよく知って言葉を勉強すること、あるいは勉強しながら言葉をとりまく現実を知っていくこと、これが必要なのです。日本に来ているロシア人留学生や、旧ソ連諸国から来ている留学生も、日本語が非常に上手なのですが、日本のレアリア、習慣に慣れるまでが難しい。例えば、日本人は何か尋ねられて答えるときに、まあ、曖昧ですよね。どっちはっきり言わない。これはロシア人からすると「何が言いたいのですか?」となってしまうのですが、これはもう私たち日本人の生活習慣というか、文化的コードになってしまっている、それを知らない限りはコミュニケーションが難しいと思うのです。

もう少し簡単な例でいきましょう。飛行機でロシアからお客さんが成田に到着したとします。出迎えに行きました。さて、最初にどう言いますか?

(参加者) С приездом(ようこそ)

(村田) いいですね、最初のあいさつは С приездом。では「お疲れではありませんか」という風に聞いてみましょう。はい、どう言いますか？

(参加者) Как долетели？

(村田) 素晴らしいですね。これは、直訳すると「どういう風にここまで飛んできたのですか？」ということですが、「どういう気分ですか」とか「どういう体調ですか」という意味を含む上手な表現です。初対面の人だとして、日本語的にそのまま、Вы устали с дороги？(お疲れですか)と仮に言うとして。では、その答えはどうでしょう？ ロシア人はなんと答えますか？

(参加者) 疲れてなかったとしたらですか？

(村田) どちらでもいいですが、では、疲れたことにしましょう。はい。Вы устали с дороги？

(参加者) う～ん、なんて言えばいいんでしょうね。

(村田) ネ、難しいですよ。ロシア人は、Да, устал(はい、疲れました)とか、Очень устал(とても疲れた)とか、これは言わないと思います。普通は、Да, немножко(ええ、ちょっと)というような言い方ですね。この「ちょっと」というのは日本語の感覚でもありますが、実はロシア語でも頻繁に使われています。

(参加者) нормально もよく聞きます。

(村田) そうですね。нормально もあります。「普通です」、「いつもと変わりません」という言い方もよくします。はっきりと「元気です！」というようなアメリカ人的な答えは返ってこないですね。

ロシア文化を規定する4つのファクター

前置きが長くなりました。今日は、ロシア文化を通じてロシアを知るのが目的です。演劇、映画、若者、これらはすべて文化現象の一つですが、これらを通じてロシア文化の話をしたいと思います。



ロシア文化を規定する特徴的なファクターは4つあります。他の国になくてロシアにしかないファクターです。まず、最初は「自然環境」です。広大な大地と自然環境、これがロシア文化を規定する第一のファクターです。次のファクターは「ロシア正教」です。ロシアがヨーロッパの他のキリスト教国と違うところは、「ロシア正教」であるということです。これはロシアにしかありません。三つ目は「西ヨーロッパからのインパクト」です。これはロシア文化を形作るうえで決定的なファクターになっています。否定的な意味でも肯定的な意味でも、重要なファクターの一つです。最後は「両極性」です。ロシア文化は非常に極端で、これは人々の性格にも反映しているかもしれません。以上4つのファクター

を頭に入れておくと、ロシアのかかなりの部分が理解できます。

今から少し上映するのは、ニキータ・ミハルコフの『オブローモフの生涯より』(1979 年作)という映画の一部です。原作はゴンチャロフ。19 世紀半ばに書かれた小説です。

(映像を見ながら)これはロシア貴族の田舎の屋敷です。少年が駆けて行きますね。走っても走っても続いていく大地、この風景です。これは第一のファクターである「自然環境」ですが、この風景がロシア人の原風景として、心の中にインプットされているわけです。これがないと多分ロシア人は暮らしていくのが辛いのではないかなと思います。皆さんの関心は、この少年がどこに向かって走っているのかというところにあるかもしれませんが、それも実はこの映画のテーマの一つですね。平原を走っているわけですが、おそらくどこまで行ってもこの風景は変わらない。「僕のママが来るんだ」と言いながら走っていますけれども、この子がそのうち大人になって子供ができて、その子供もまた同じように平原をどこまでも走っているのではないかなという気がします。これはずっと繰り返されていく一つの文化の原型です。この風景を覚えていてください。



ロシア演劇の流れとキーワード

ロシア演劇の曙(9～16 世紀)

では、資料にそって、演劇の話から始めましょう。まずはロシア演劇の曙です。どの国でも、演劇のスタート地点は、非常に汎神論的な、一神教ではない、自然の神を信じ称えるといったメンタリティから始まっています。とくにロシアでは、古いスラヴの異教の儀式であるとか、結婚式とか葬式は、すべて演劇的形式で行われてきました。例えば、結婚式は一週間くらい続いたのです。今でもそういう伝統が残っています。マースレニツァという春の祭りがありますが、ブリヌイ(薄いパンケーキ)をたくさん焼いて、みんなでご馳走を食べる。冬を追い払って春を迎える儀式です。3 月初めぐらいに行われるのですが、若い人が戸外に出て、何人も殴りあうこともあるのですね。запой という宴会のようなものもあって非常に楽しい。こうしたものが演劇的な形式で行われてきました。これがロシア演劇の始まりです。

スコモローヒというのは、昔の大道芸人とか、旅回りの役者グループのことです。時の権力や教会からは嫌われていましたが、人々には親しまれて民衆演劇に浸透していききました。詳しく知りたい方は、タルコフスキーの映画『アンドレイ・ルブリョフ』の中のスコモローヒに注目しましょう。

さらに、998 年にロシア正教を受容して、ロシアは大きく

変わっていきます。正教の受容は、そのことによってヨーロッパと同じような文化的背景を持った国になろうとか、中央集権を目指そうといった政治的意図があったのですが、ロシア文化のその後の発展にも大きな影響を与えています。

ヨーロッパ文化の影響(17～18 世紀後半)

次はヨーロッパ文化の影響を受けた 17 世紀から 18 世紀後半です。外国劇団の招聘などによって、ロシア内にさまざまな演劇が育っていきます。民衆劇というのは、ロシア演劇の曙で見られたカーニバル的な演劇の延長上にありますが、たとえば『皇帝マクシミリアン』という芝居は、ピョートル大帝とその息子の軋轢があらすじになっています。200 ものバリエーションがあるのですが、基本的なシナリオはロシア人は皆知っているわけです。重要なのは、どうやってそれを演出するかということで、つまり歌舞伎と同じと考えていい。歌舞伎は演目によってもう内容は分かっているので、役者がどう演じるか、演出がどうなされるかということがポイントです。同じようにロシアでも、民衆劇はもう話は分かっている、それをどう演じてどう見せるかというところに客の関心が集まります。

アンナという女帝の時代(1730～40 年)には、イタリアの即興劇 *commedia dell'arte* というのが随分はやります。



20 世紀ロシア・アヴンギャルドの時代にもこの手法が使われましたが、これはシナリオがない即興劇なんです。筋だけは俳優同士で了解していて、あとはお互いに即興で台詞を喋って演じるという、俳優にとってはとても大変な芝居ですが、

観客から見ても非常に面白い。毎回見るたびに内容が変わっている。それが面白いです。

エカチェリーナ II 世の時代(1762～96 年)に農奴劇団と職業劇団ができます。ロシアは農奴制の国でした。1861 年に農奴解放令が出されますが、農奴というのは、単なる小作人ではなくて、土地(農地)に縛りつけられた農民です。移動する自由を奪われて、土地を所有する貴族の奴隷に近い存在でした。ただし、農奴の扱い方は貴族によってかなり違いました。例えば、モスクワのシェレメーチェヴォ空港の名前は知っていますね。これと同じ名前のシェレメーチェフ伯爵などは、才能のある農奴を集めて俳優養成をしていました。農奴劇団というのはこのようにして作られた劇団です。例えば、フランス人やイタリア人の演出家、歌手などを呼んで、農奴にフランス語、イタリア語を覚えさせるのです。そして芝居もさせる。その芝居を見るために、ロシア貴族だけでなく、外国の大使や外交官が集まりました。職業劇団を超えるほどの人気があったそうです。しか

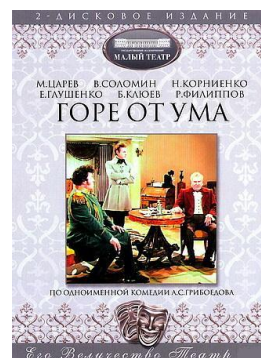
し、農奴制度が廃止される前に、農奴劇団はほとんど姿を消してしまいます。そして、上手な役者は職業劇団に売られていった。例えば、シチュープキン。シチュープキンはロシア史上非常に有名な俳優で、リアリズム演劇の創始者の一人です。1824 年ごろに彼はマールイ劇場に入りました。『検察官』(ゴーゴリ作)の市長役をよくやっていました。芝居のポスターで、優秀な俳優は“M”のマークがつく。M はマスター(мастер)です。彼は農奴だったので死ぬまでそのマークをつけてもらえなかったという逸話があります。

独自性をめざして(18 世紀後半～19 世紀後半)

ヨーロッパ文化から受けた影響をもとにして、次は独自の演劇を作っていこうという動きが起こります。ロシア独自の演劇文化を創出する動きが、18 世紀後半から 19 世紀後半にかけてめざましく広がった。有名な劇作家がたくさん出てきます。

フォンヴィーゼンの風刺喜劇などは今でも上演されています。『「親がかり」(Недоросль)』という芝居は、女性の地主貴族の話で、悪巧みをして最後にはそれがバレてしまい追放されるという筋なのですが、その台詞は 18 世紀の終わりから 19 世紀のロシア人の頭の中には浸みこんでいて、тришкин кафтан(失敗をいい加減に取り繕ってさらに大きな失敗を重ねる逸話)という言葉など今の人が聞いても分かるんですね。当時の生活言葉が非常に豊かに使われているので、今でもフォンヴィーゼンはロシア演劇の愛好家たちにこよなく愛されています。

グリボエードフ(1795～1829 年)の『知恵の悲しみ』、レールモントフ(1814～1841 年)の『仮面舞踏会』、プーシキン(1799～1837 年)の『ボリス・ゴドゥノフ』、ゴーゴリ(1809～1852 年)の『検察官』、これが 19 世紀ロシア演劇で一番大事な四大作品と言われています。実は、これらはすべて検閲がかけられました。この作家たちは、生きている間は検閲のために完全版では上演できなかった。農奴解放以降、やっと上演されるようになったいわくつきの作品です。しかし、農奴劇団では完全版でやっていたのです。都市で上演する前に、シベリアの彼方とかで検閲なしでやっていたわけです。これは面白いと思います。



ここで『知恵の悲しみ』を少し見ましょう。2002 年の舞台を収録したものです。(VTR スタート)この話は、3 年ぶりにモスクワに帰ってきたチャツキーという若い貴族が、元の恋人・ソフィアと会う場面です。話が通じないんですね。ヨーロッパから帰ってきてモスクワの人に会っても、ソフィアは、もし

かしたらチャツキーが帰ってくるのではないかという期待と不安があります。彼女にはもう別の恋人というか、父親が決めた許婚者がいるのですが、実はあまり好きではない。彼女はまだチャツキーのことが気になっていて、そこにチャツキーが本当に来てしまう。……。チャツキーは「つい昨日会って話したばかりのような気がする」と言っていますが、ソフィアはちょっと反応しにくいわけです。お父さんの方は面白いですね、「ああ、チャツキーさんですか」、「知りませんね、あんたみたいな人は」というような感じです。チャツキーは久しぶりに会えて喜んでいますが、でも、こっちは困っている。そんな場面です。この戯曲は全部詩でできています。韻文戯曲といって、全部韻を踏んでいるのですが、それを壊さずに、現代演劇で上手く上演しています。この『知恵の悲しみ』で注目しておきたいのは、当時、この中からたくさんの表現が生まれたことです。例えば「幸せな人は時計を見ない」(Счастливые часов не наблюдают)とか、今でもよく使う表現がこの戯曲から出てきました。

この時期の劇作家で、スホヴォー＝コブイリン(1817～1903 年)という人がいます。この人の『タレールキンの死』という戯曲は、20 世紀に入ってメイエルホリドが上演して、前衛的な芝居にしています。俳優の動きとブランコなど舞台装置の動きを連動させるという実験をやったのですが、このように 19 世紀の伝統は 20 世紀のロシアでちゃんと活かされている。『巨匠とマルガリータ』(Мастер и Маргарита)で有名なブルガーコフも、『タレールキンの死』からたくさんのモチーフを取っています。

さらに、19 世紀の終わり(1898 年)にモスクワ芸術座が創設されます。スタニスラフスキー(1863～1938 年)とネミロヴィッチ＝ダンチェンコ男爵(1858～1943 年)ですね。演出家とプロデューサーと思ってください。何をやったかと言うと、それまでの演劇は俳優が舞台に出てくると、まず前舞台に出て自己紹介するんですね。私はこういう者だと。例えば、「私はファウストだ」とか言ってから演技を始める。そういう旧来の演劇らしさというものから抜け出して、演劇のリアリティを求めたわけです。ただ、前期のスタニスラフスキーは、演出としては、いわゆるリアリズムから抜け出てなくて、新しいことをあまりやっていないのですが、後半になるとその弟子であったメイエルホリドの影響を受けてシンボリズム的な舞台も作っています。

日本では、スタニスラフスキーシステムを新劇がかなり取り入れています。スタニスラフスキーの前期のものを小山内薫が見て日本の築地小劇場に持ってきた。その当時は



もちろんビデオもありませんから、スタニスラフスキーの演出を小山内がスケッチして、それを日本に持ち帰って新劇に広げたのです。完全な形ではなかったわけですが、日本の新劇の発展にはスタニスラフスキーの前期の演出が伝わっていたということを知っておいてください。

演出の時代(20 世紀初頭～1920 年代)

20 世紀の初めから 1920 年代は、ロシア演劇の黄金時代といってもいいと思います。いろいろな演出家が出てきました。戯曲もたくさん書かれました。例えば、アントン・チェーホフ(1860～1904 年)。たくさんの作品を書いています。ここでチェーホフの『桜の園』(ビデオ)を少し見てみましょう。



『桜の園』は、ラネーフスカヤという貴族の女性がいて、自分の領地がオークションにかけられるのですが、それがいつの間にか使用人の息子ロパーヒンに競り落とされ、買い取られてしまうというお話です。

(ビデオを見ながら)この場面は、オークションが終わったところです。ラネーフスカヤはオークションはどうなったか教えてくれと言っています。「誰が競り落としたんだ」、「私だ」と言っていますね。以前は、ロパーヒンは悪徳商人で悪人であるというふうな演出が多かった。ソ連でも日本でもそうだったのですが、この人は別に悪人でも何でもなくて、普通の人なのです。ラネーフスカヤの領地を買ったのですが、買ったことを別に喜んでいるわけではない。ラネーフスカヤも、自分の領地が競り落とされても、そのこと自体にはショック受けていない。彼女は実はパリに愛人がいて、またあそこに帰ることになるのかという、ロシアを離れなければならないという寂しさはあるのですが、桜の園を手放すことについては、彼女は別に悔やんではないのです。これはコメディーなんですね。ところが、これを外国で上演すると、とくに日本ではそうですが、悲劇になってしまう。どういうわけか、これを見ると涙が出るとか、没落貴族の哀愁が漂っていると、その程度の批評で終わってしまうのですが、本当はそういう芝居ではないのです。

実はもっと深い意味がこめられています。登場人物たちは、それぞれ喋っていることと知っていることが違うのです。これは現代劇の特徴の一つですが、19 世紀までは登場人物は考えたとおりのことをほぼ喋っていた。チェーホフから、話していることと考えていること、あるいは考えていることと動作が大きく違うようになるのです。これが大きな特徴で、そこにコメディーが生まれるわけです。また、チェーホフは、軍人だとか、医者だとか、地主貴族とか、肩書きをすべて取り払ったら人間はどうなるかということを見せたわ

けです。人間は、皆同じかもしれないというところを見せました。つまり、すべての役がらを一度裸にしてしまっ、観客に提示するという非常に革新的なことをやったのですが、それはいまだにきちんと評価されていないというか、そこまで理解して演出している人はあまりいないようです。登場人物たちは、舞台に入ってきてまた去って行くのですが、彼らは自分の役を探しているのです。自分は何をしたのか、この人生において何をしたらいいのか。考えて、答えは出ないままに、また去っていく。チェーホフの作品に哀愁が漂っているとすれば、そのあたりではないかと私は思います。

ブローク(1880～1921 年)の『見知らぬ女』、『見世物小屋』では、それまでのロシア演劇と違って、舞台裏の仕掛けを見せました。つまりイタリヤ即興劇のように、舞台の横や脇も全部見せて、芝居はこういう風に作ってるんですよと、そこまで観客に見せるようにしました。これも革新的な演出です。

フレーブニコフ(1885～1922 年)は、「超意味言語」という、新しい言語を開発します。今までの言語はすべて古い、芸術的には使えないと主張して、例えばユリの花はロシア語ではリリヤ(лилия)ですが、これからはリリヤではなくてエウイと名付けようとか言って、新しい言葉を作っていました。『ザングジ』という戯曲では鳥が出てきます。戯曲の中に鳥の鳴き声がいっぱい入っていて、鳥が喋っているのです。この芝居を見た人がどう思ったか分かりませんが、とにかくこのような実験的な戯曲を作りました。



マヤコフスキー(1893～1930 年)は絵を描いたり、ポスターを描いたり、詩を書いたりして、町の中を芸術的にしようと考えていました。1912 年に出された『未来派宣言』にはマヤコフスキーも参加していますが、その中で、20 代前半から後半の若い人たちが集まって、それまでの古い文学作品を現代の船から放り出そう、新しい言語にもとづいた新しい文化を作ろうと宣言しています。

文学作品を自立した言語世界としてとらえ、言語表現の方法と構造の面から文学作品を解明しようとフォルマリズムを提唱したシクロフスキーやヤコブソンも皆、20 代の若さでした。このような若い世代がロシア・アヴァンギャルドをバックアップしたのです。

文学作品を自立した言語世界としてとらえ、言語表現の方法と構造の面から文学作品を解明しようとフォルマリズムを提唱したシクロフスキーやヤコブソンも皆、20 代の若さでした。このような若い世代がロシア・アヴァンギャルドをバックアップしたのです。

メイエルホリド(1874～1940 年)については、話が長くなりますので、ここでは一つだけ、19 世紀の伝統を活かして、その戯曲を使って現代の精神を表そうとしたということをおきます。

エヴレイノフ(1879～1953 年)は、日本ではあまり知られていませんが、ロシア演劇では非常に大きな功績を残

した人です。彼は「演劇性の本能」といって、「人間は生まれた時から役を演じているのだ」と言います。小さな女の子が花を髪にさして簪のように飾る、これもすでに演劇だというようなことを言っています。

ミハイル・チェーホフ(1891～1955 年)はアントン・チェーホフの甥ですが、ロシアで活躍したあとは、アメリカに移りました。アクターズ・スタジオで俳優を育てましたが、教え子の中には、ユル・ブリンナーをはじめ有名なハリウッド俳優がたくさんいます。彼は、スタニスラフスキーとメイエルホリドの手法を結合させようと思いました。完成はしなかったのですが、新しい演技のメソッドを作ろうとしました。



ツヴェターエヴァ(1892～1941 年)は、ロシアでは詩人として知られていますが、実は、戯曲も書いています。詩で書いた戯曲で『ハートのジャック』、『吹雪』、『フェードル』といった作品です。『吹雪』は革命直後に書かれましたが、革命前と革命後のロシアの変わりようがはっきりと出ていて興味深いです。

「小品劇場」(театр миниатюр)も、あまり日本では知られていません。これは本当に小さな劇場で、せいぜい 100 人か 150 人しか入らない。当時の大劇場の俳優、有名な歌手シャリヤーピンやスレジツキーといった人たちが、大劇場での芝居をやり終わった後に、夜な夜なこの小劇場に通って、大舞台では見せられなかったような演技を披露しました。

オベリウというのは、「リアルな芸術の協会」という詩人の団体です。不条理演劇を作りました。

ハルムス(1905～1942 年)の「エリザヴェータ・バム」という作品は、あの先駆的なベケットよりも前に不条理を取り上げたことでよく知られています。エリザヴェータ・バムは女性なのですが、ある日突然、秘密警察によって逮捕されます。ドアが「ドンドンドン」と叩かれて、「エリザヴェータはいますか?」。やって来たのは、実はエリザヴェータに殺された人なのです。そこからして、すでにおかしいのですが...。この作品の中には、面白い表現があります。

・На печке таракан тараканович? (-何でペチカ(печка)の上にタラカン・タラカンビッチ(=ゴキブリ)がいるのか?) この печке は秘密警察のことです。Таракан тараканович はスターリンを暗示しています。

・Пристальный взор これは、じっと見つめるということですが、スターリンの目を示しています。

ただの不条理劇ではないのです。何か変なことを言うてるなというところを注意深く見ると、アナグラム(言葉の入れ替え)になっていて、実は恐ろしい内容が含まれていることに気づきます。そこまで考えて作られた戯曲なのです。

ヴヴェジンスキー(1904～1941 年)の『イワノフ家のクリス

マス』という戯曲には、イワノフ家の人は誰も出てきません。全然関係のないプズリョーフという人が出てきます。「80 歳の少年」というのも出てきます。これも当時の現実を反映していたのではないかと思います。当時(スターリン時代)は、昨日まで隣にいた人が今日はいない、何故かいないになっている。理由は説明しなくても分かると思いますが、そういう時代でした。

カウンターカルチャーとしての演劇(1930～50 年代)

これは、当時の社会主義リアリズムに対抗する形で、あるいは社会主義リアリズムが出てくる少し前から、「いや、そういう路線では芸術はできないよ」と訴える人たちが作った演劇です。ブルガーコフの『トゥルビン家の日々』は今でも上演されています。『ゾーイカのアパート』、『イワン・ワシリーエヴィチ』なども人気がありましたが、当時は検閲が厳しくてすぐ上演禁止になってしまいました。上演されるようになったのはごく最近、ペレストロイカ以降のことです。

映画における演劇性ですが、ここでエイゼンシテイン(1898～1948 年)のビデオを少し見ましょう。エイゼンシテインは『戦艦ポチョムキン』であまりにもよく知られています。今日は『イワン雷帝』の一部を見ていただきます。

イワン雷帝は、ツァーリの権力を強めてロシアを 1 つの国にまとめようとするのですが、大貴族たちの大きな反発に遭います。その反発を押さえ込み、さらにロシア正教会をも押さえつけて、イヴァン・グロズヌイ(雷帝)として君臨していく。映画は、陰謀渦巻く宮廷と動乱時代のロシア皇帝の悲劇を描いています。この映画、イワンが弱く描かれ過ぎであるということで、スターリンから「もっと強い話を作れ」と、何度もやり直しを命じられ、エイゼンシテインは映画を 3 回作り直します。3 回目の作品はかなりスターリンよりの作品にせざるを得なかったそうですが、そのフィルムはもう残っていません。これは最初の作品ですが、俳優の演技に注目してください。目の動きとか、動作とか、何か気付くことはありませんか？ イワンの視線とこの動きもそうですね。当時の演技では珍しかったのです。歌舞伎を思わせるような様式的な演技です。実は、エイゼンシテインは日本文化にかなり詳しくて、市川左團次の歌舞伎公演(モスクワ)を見ているのです。目を剥くだとか、化粧の仕方もそうですが、演技に歌舞伎の影響が認められます。

それから、『戦艦ポチョムキン』だけでなく彼はこの映画でもモンタージュを使っています。これは、イワン雷帝が機嫌を損ねてモスクワを去り、郊外のある村に籠っている場面ですが、この村で、「国民の要請があればモスクワに戻

る」と言うわけです。この場面です。このイワンの髭です。顎鬚と請願に集まる人々の行列が重なり、上手く繋がっていくんですよ。顎鬚はイワンの権力の象徴

です。そして、国民＝ロシアの **народ** がこの髭とつながっている。記号論的にも興味深いシーンです。モンタージュは、当時、非常に革新的な実験でした。

＊停滞からの脱却(1960 年代～80 年代)の項目は割愛します。1960 年代、70 年代のソ連はまだ検閲の時代で、作家は検閲との戦いを繰り返していたわけです。これは他の国でもあったのですが、ソ連時代はとくに厳しくて、検閲に引っかかるとその作品はもう上演できない。検閲が廃止されたのはペレストロイカ以降、1986 年頃だと言われています。今は検閲はありませんが、今度は国が文化予算を出さない。予算が足りなくて思うように活動できないという別の問題が起っています。

新しい演劇性を求めて(1990 年代以降)

最後に、ロシア演劇の今日の状況を報告して、この＜演劇＞の項目を閉じましょう。

最近、シーズン・レパトリー制の導入が進んでいます。昔は 1 週間同じ演目、例えば『桜の園』だったらそれだけを上演していたのですが、今はそのシーズンにやる舞台や作品が決まっていて、その数が 10 から 15 くらいも演目があるのです。それを隔日に、1 日おきに新しいものを入れていくとか、あるいは 2 日同じ芝居をやると、次の 3 日目 4 日目はまた違う演目をやるといったことが行なわれています。これは俳優にとっては大変です。その日の夜に上演するものは前日に練習しておいて、その日の昼は翌日にやるものを練習するといったことが必要になります。連日やっていると、声がだんだん出なくなってくる。それで、最近では耳のあたりに小さなマイクをつけて舞台上で演じる人が増えています。音楽と反響したりして音としては良くないのですが、そのような工夫もしています。

これからモスクワに行って芝居を見たいという方には、次の二つの劇場を紹介します。一つは、フォメンコ劇場。マスケルスカヤ・フォメンコと言いますが、ウクライナホテルの近くにある小さな劇場です。150 人から 200 人くらいしか入れませんが、いつも秀作を上演しています。

もう一つはワシーリエフ劇場のヤツコ氏の演出作品です。彼はワシーリエフの弟子なんですが、ワシーリエフがパリに行ってしまったので、今は彼が劇場の中心になっていま



す。シコーラ・ドラマチーチェスカヴァ・イスクストヴァというドラマ劇場、彼らは学校と言っていますが、劇場です。ここでは前衛的なものもやっていて、オスカー・ワイルドの『サロメ』や、ツヴェターエワの『石の天使』など、意欲的な作品を上演しています。おそらく今までのリアリズム演劇とは違った新しい演劇が見られると思います。

最後に、海外との演劇文化交流も活発に行なわれています、これまでは、例えば、日本からモスクワに歌舞伎を持って行って上演する、ロシアから БДТ(ボリショイ・ドラマ劇場)やマールイ劇場が来日するといった形で、一方向でした。上演してそれでおしまいだったのですが、最近は共同制作を行なうとか、日本の戯曲をロシア語に翻訳してモスクワで上演するとか、そういう新しい形の演劇交流が始まっています。俳優養成でも、ロシアの演出家がたくさん日本に来てワークショップをやっています。モスクワ芸術



座スタジオやマールイ劇場の有名な先生たちが来日して日本の俳優を指導しています。もちろんロシア語でやるのですが、通訳つきでも、なしでもできます。そういう交流が進んでいます。

<ロシア映画> 略

ロシアの若者文化

ロシアの若者文化ですが、定義するのが非常に難しいですね。日本の若者文化とどこが違うか？と問われても、すぐさま正しい解答を出すことはできません。

ただ、日本と大きく違う点は、社会の変化の大きさの度合いです。ロシア社会は激変しました。1990 年代から 2000 年代にかけての変わりようは、日本のインターネット化による社会の変化程度とは比べものにならないくらい大きい。ソ連(社会主義)からロシア(市場経済)への急激な変化は、ロシア社会を激しく揺さぶりました。もちろん、ロシアでもインターネットや携帯電話は大都市だけでなく地方都市でも広く行き渡っています。情報を受け取るだけでなく、様々な情報発信も進んでいます。Досуг とか Афиша といった情報誌の役割も非常に大きいと思います。広告産業の発達も見落とせない現象です。

最近のロシア文化の傾向としては、少しずつヨーロッパやアメリカのコピーから抜けだして、ロシアの歴史や文化遺産を信じて、何か新しいものを創っていこうという動きが強まっています。

もう1つは、両極性です。крайность とでも言うんでしょ

うか。ロシアでは、勉強する人はもの凄く勉強します。本もたくさん読み、きわめて高い能力を持っている。しかし、外の通りに出てみると、何もせずにゴロゴロしている若い人もいます。日本以上にその落差が激しい。日本でもよくできる人もいればできない人もいます。けれども、ロシアの方がコントラストがはっきりしているように感じます。これは驚くべきことで、ソ連時代にはありませんでした。社会の激変が影響しています。

カルチャーとサブカルチャー

サブカルチャーとカルチャーの境目は、実は非常に際どい。難しいと思います。

大きな区別として、社会とか世界への影響力があるのがカルチャーですね。サブカルチャーは、社会や世界への影響力があまり大きくない。仲間内で自己満足の世界に浸っているのがサブカルチャーだと思います。しかし、その境目となると、どこに線を引いたらよいのか、難しいですね。

サブカルチャーはある種のコミュニティーを作ります。例えば、服装。同じようなファッションをしたら、同じようなシンボルマークの T シャツを着たりする。あるいは、スラングを流行らせて、仲間だけで通じる言葉を使ったりします。そうしてお互いの仲間意識を高め合います。

少し図式的になりますが、サブカルチャーがカルチャーに発展していく契機として、次のような対比をしてもいいと思います。ゲーム感覚というのはサブカルチャーの特徴ですが、これが理念の追求となるとカルチャーになっていく。仲間内の世界だけを創るのであればサブカルチャーですが、これが他のグループに対抗意識をもって拡大していくとカルチャー化していく。サブカルチャーは現実逃避的ですが、カルチャーは社会的影響を追求していきます。これもバロメーターの1つです。

ロシアにおける若者文化の伝統ですが、先に紹介したアヴァンギャルドとかフォルマリズム、超意味言語なども、若い人が作りました。1960 年代の初めごろには、アメリカ文化にちょっとかぶれた人たちを指して **стиляги** という言葉が使われました。「アメリカかぶれ」。アメリカのファッションを流行らせたり、バイクの文化を広めたりしました。そういう伝統はロシアに今でもあると思うのです。だから、現在のサブカルチャーが今後どのように発展していくのか、アヴァンギャルドのように世界に広まっていくのかどうか、ちょっと楽しみにしてるのですが、まだ先は見えないですね。

現代ロシアのサブカルチャー

サブカルチャーの具体例として、資料(3)にいくつか挙げました。変化が激しいので、資料に取り上げたものも、もう古くなっているものがあると思います。

現実逃避の項目では、ヒッピー(хиппи)とかコスプレ(ролевики)があります。コスプレもロシアで流行っています。

娯楽では、ラップ(рэперы)。ヒップホップとかラップを聞いている人は多いです。готы というのは、日本でも原宿などで見ますが、黒い服を着てゴシックスタイルで歩いている人たちです。



犯罪のところは、ネオファシストもこれに入ります。гопники というのは違法行為をするために作ったグループで、敵を作るという奇妙なグループ意識を持った人たちです。今はもう大分古くなっています。

音楽、これは日本とあまり変わらないですね。ヘヴィメタ(металлисты)とかブレイク(брейкеры)、パンク(панки)、ポップス(попсовики)、みんなあります。

その他の項目の мобберы というのはちょっと変わっていて、英語で言うとフラッシュモブです。例えば、真夏のある日、「午後2時クレムリンに集合」とインターネットで人を募って、集まったら何でもいいのですが、「С Новым Годом!»(新年おめでとう!)とかを言うわけです。それでぱっと消えてしまう。それで終わり。一回だけ集まって消えるというだけです。

いわゆるロシア的なものを探そうとすると非常に難しいですが、やっぱりロシアは詩の伝統や演劇の伝統がありますので、それは活かした文化がこれから出てくるのではないかと、私は期待しています。

ちょっと駆け足になりましたが、ロシアの若者文化の紹介とさせていただきます。

会場に、若いロシア人の方がいるので、少し“若者文化”について感想を聞いてみましょう。日本やヨーロッパと違うロシアの若者文化というのはありますか。

(ジーマ)JIC モスクワのトカチェンコです。若者文化というのは多分、日本でもロシアでも、全世界的に似たようなものがあって、お互いに影響を与えあっていると思います。私よりずっと若い人の話ですが、なぜかロシアの若者のなかで日本のアニメがすごく流行っているんですね。モスクワだけでなく、地方に行ってもびっくりするほど流行っています。日本の話をすると必ずアニメのことが出てきます。

若者というのは学校の勉強がありますが、暇もあります。ソ連時代には、イデオロギー的な縛りをかけるためにコムソモール(共産主義若者青年同盟)というのがあって、若者はそこに入っているいろいろなことをやったのですが、ソ連崩壊後は共産主義イデオロギーがなくなって、若者は自分の道を自分で探すようになりました。混乱の90年代が過ぎて2000年代以降はイデオロギー的に少し安定してき

たと思いますが、ソ連時代と比べるとまだそれほど安定していない。新しい価値観というか、自分の道を探している若者は多いと思います。いろいろな種類の若者がいることは間違いないですね。

(村田)ジーマさんは、ここに挙げたようなグループに参加したいですか？親近感を覚えるものがありますか？

(ジーマ)個人的な経験のために、この中の誰かと一回か二回会って話をしてみてもいいとは思いますが、とくにグループに入りたいとは思わないです。質問とは関係ないですが、私には弟がいます。私は28歳で、弟は22歳です。だからそんなに離れていないのですが、世代としては全然違うという感じもします。私が生まれたのは1982年で、ソ連時代のことを少しだけ覚えています。教育も育ち方も少しですがソ連時代の空気を吸っています。しかし、弟はソ連時代のことは何も覚えていません。時々、私より若い人は何か違う時代の人という感じがします。だから弟とも5年ではなくて、15年くらいの違いに感じることもあります。

(オリガ)私もジーマとほぼ同じ意見です。先生の資料にあるグループは半分くらい分らないです。私が入ったことのあるグループは一つだけで、学校のときピオネール(Пионер)に入っていました。これもソビエト時代のカルチャーの一つです。他に、音楽とか娯楽関係のグループには一度も入ったことがないので、よくわかりません。今の高校生や中学生はよくローラースケートをやったりしていますが、私が子供のころはそういう遊びもなかったです。

(ジーマ)もう一つ言いたいことがあります。ソ連崩壊後、イ



デオロギーの問題(価値観の喪失)もあったのですが、今のロシアでは、家族の危機というか、親と子どもがお互いに理解し合えないこと

が多いです。子どもという若い人たちは、家に帰るよりもどこかのグループに入って、そこにいる方が自分の家族といるより安心するのかもしれないですね。

(シャハラン)私はロシア人ではなくて、イラン人です。オーリヤと日本の同じ大学に留学していた同級生です。留学仲間のロシア人の友人が結構います。ジーマも言ってましたが、8年前に会ったロシア人と、2年前に会ったロシア人学生とでは、かなり違うように思います。8年前のロシア人というのはジーマとかオーリヤですが、何というかソ連の人だなという感じがします。だけど2年前のロシア人は、ソ連ではなくて、もう少しヨーロッパに近いロシア人という感じがですね。現在のロシア人というのは、閉鎖的ではなくて、もっと知りたい、もっと世界を歩きたい、もっといろいろ試して

みたいという人が多い。もうシャイではないし、恥ずかしいということを知らない。そういうふうに私は感じています。

(村田)ありがとうございます。時代がちよっと違うとロシア人も変わってくるという貴重な意見です。文化というのは非常に多様性があって、これからロシアの文化は変化し発展して行くと思います。簡単にまとめられるテーマではありませんが、皆さんがこれからロシア語を勉強していくとき、ロシアの文化のいろいろな側面にも目を配って勉強していただくよう願っています。 <おわり>

資料(1) ロシア演劇の流れとキーワード

<ロシア演劇の曙:9～16世紀>

- ・スラヴ的汎神論とロシア人のメンタリティ
- ・異教の儀式、結婚式、カーニバル、縁日、見世物小屋、人形劇
- ・スコモローヒ
- ・正教受容(988年)と学校劇

<ヨーロッパ文化の影響:17世紀～18世紀後半>

- ・キエフ神学アカデミー(1615-1817)
- ・アレクセイ(在位 1645-76)とピョートルⅠ世(1682-1725)による外国劇団の招聘
- ・民衆劇『皇帝マクシミアン』『船』
- ・アンナ(1730-40)の時代－イタリアの即興劇 commedia dell'arteの流行
- ・エリザヴェータ(1741-62)の時代－常設の帝室劇場設立(1756)、ヴォルコフ(1729-63)
- ・劇作家スマローコフ(1717-77)とロシア古典主義
- ・エカチェリーナⅡ世(1762-96)の時代－農奴劇団と職業劇団

<独自性をめざして:18世紀後半～19世紀後半>

- ・ドミトリーフスキー(1736-1821)による俳優養成
- ・フォンヴィージン(1743-92)－諷刺喜劇『旅団長』『親がかり』
- ・ブラヴィーリシコフ(1760-1812)－演じる劇作家 / 『給仕』
- ・グリボエドフ(1795-1829)－『知恵の悲しみ』と『余計者』
- ・レールモントフ(1814-41)－『仮面舞踏会』
- ・ゴーゴリ(1809-52)－『検察官』のグロテスクと『幻想的リアリズム』
- ・プーシキン(1799-1837)－『ボリス・ゴドゥノフ』
- ・俳優シチュープキン(1788-1863)とリアリズム演劇
- ・スホヴォード・コプイリン(1817-1903)－『クレチンスキーの結婚』『事件』『タレールキンの死』
- ・オストロフスキー(1823-86)－『闇の王国』、民衆の言葉 / 『雷雨』『森林』
- ・モスクワ芸術座創設(1898)と演出家の時代の幕開け－スタニスラフスキー(1863-1938)、ネミロヴィチ・ダンチェンコ(1858-1943)
- ・デカダン、シンボリズム

<演出の時代:20世紀初頭～1920年代>

- ・チャーホフ(1860-1904)－『かもめ』『ワーニャ叔父さん』『三人姉妹』『桜の園』
- ・アンドレーエフ(1871-1919)－『サヴヴァ』『人の一生』
- ・ブローク(1880-1921)－『見知らぬ女』『見世物小屋』
- ・フレーブニコフ(1885-1922)－『ザンゲジ』
- ・マヤコフスキー(1893-1930)－『南京虫』『ミステリヤ・ブッフ』
- ・未来派宣言(1912)－マヤコフスキー、クルチョーヌィフ、ブルリューク、フレーブニコフ
- ・フォルマリズム－シクロフスキー、ヤコブソン、トウニャーノフ、エイヘンバウム
- ・コミッサルジェフスカヤ(1864-1910)－メイエルホリドやエヴレイノフとの協力関係
- ・メイエルホリド(1874-1940)－幕間劇の館、ピオメハニカ / アンドレーエフ、ブローク、マヤコフスキー、エルドマン、グリボエドフ、ゴーゴリ、オペラ作品などの演出
- ・エヴレイノフ(1879-1953)－古代劇場、モノドラマ / 『陽気な死』『最も重要なこと』 / 『あるがままの演劇』『ロシア演劇史』
- ・コミッサルジェフスキー(1882-1954)、ワフタンゴフ(1883-1922)、タイロフ(1885-1950)、M・チャーホフ(1891-1955)
- ・ツヴェターエヴァ(1892-1941)－『ハートのジャック』『吹雪』『フェードル』

- ・小品劇場－『蝙蝠』(バリーエフ、タラーソフ)、『歪んだ鏡』(クーゲリ)
- ・ユダヤ人劇場『ガビーマ』
- ・『オペリウ』とアヴァンギャルドの終焉－ハルムス(1905-42)の『エリザヴェータ・バム』、ヴヴェジェンスキー(1904-41)の『ワノフ家のクリスマス』

<カウンターカルチャーとしての演劇:1930～50年代>

- ・ブルガーコフ(1891-1940)－『トウルビン家の日々』『逃亡』『ゾーイカのアパート』『イワン・ワシーリエヴィチ』
- ・エルドマン(1902-1970)－『委任状』『自殺者』
- ・映画における演劇性－エイゼンシュテイン(1898-1948)の『戦艦ポチョムキン』『イワン雷帝』
- ・社会主義リアリズムと演劇の画一化
- ・古典への回帰
- ・シュワルツ(1896-1958)－『影』『平凡な奇跡』
- ・アルブーゾフ(1908-86)－『ターニャ』『イルクーツク物語』『残酷なゲーム』
- ・ローゾフ(1913-2001)－『永遠に生きる者』『ごきげんよう！』
- ・『雪どけ』と演劇人の名誉回復
- ・リュビモフ(1917-)－タガンカ劇場の挑戦

<停滞からの脱却:1960年代～80年代>

- ・ヴァンピーロフ(1937-72)－『鴨猟』『去年の夏チュリムスクで』
- ・海外公演の増加
- ・小劇場、演劇スタジオの活躍
- ・ペレストロイカ－検閲廃止、予算削減、ポスト・モダン隆盛
- ・ペトルシェフスカヤ(1938-)－『空色服の三人の少女』『コロンビーナの部屋』

<新しい演劇性を求めて:1990年代以降>

- ・シーズン・レパートリ制の導入
- ・フオメンコ(1932-)、ヤツコ(1964-)
- ・海外との演劇文化交流－共同制作、戯曲翻訳、俳優養成、シンポジウム

資料(2) ロシア・ソヴィエトの映画作家たち

1. エイゼンシュテイン(1898-1948)－『戦艦ポチョムキン』『アレクサンドル・ネフスキー』『イワン雷帝』
2. タルコフスキー(1932-86)－『僕の村は戦場だった』『惑星ソリス』『ノスタルジア』
3. ミハルコフ(1945-)－『機械仕掛けのピアノのための未完成の戯曲』『オブローモフの生涯より』『太陽に灼かれて』
4. ムラトワ(1934-)－『短い別れ』『チェーホフのモ チーフ』『調律師』

資料(3) ロシアの若者文化

1. 定義について

- (1) 欧米の模倣からの脱却
- (2) 社会の激変
- (3) 情報源・情報発信としてのインターネットの普及
- (4) 両極性

2. カルチャーとサブカルチャー

- (1) 社会や世界への影響力
- (2) コミュニティの形成－ファッション、シンボル、スラングのようなコードを基盤にした帰属意識・仲間意識。ゲーム感覚 / 理念の追求、他のグループあるいは社会への対抗意識 / 仲間だけの世界の創出、社会的影響の追求 / 現実逃避
- (3) 多様性と発展性
- (4) カルチャーとサブカルチャーの境界線
- (5) ロシアにおける若者文化の伝統－アヴァンギャルドや

стиляги

3. 現代ロシアのサブカルチャーの具体例

現実逃避: хиппи, панки, толкиенисты, ролевики, байкеры

娯楽: готы, рейверы, рэперы, роллеллы

犯罪: гоппники, люберы, футбольные фанаты, неофашисты, скинхеды, нацболы, наркоманы, хаккеры

音楽: металлисты, роллинги, брейкеры, панки, попсовики

イデオロギー: ностальгисты, анархисты, пацифисты, отклонисты, «зелёные», неофашисты

マッチョ: качки

攻撃: теляги, гоппники, люберы

その他: мобберы, стрейт-эдж

神戸市外国語大学語劇祭

ロシア語劇団 河本恵美子

今年で61回目を迎える神戸市外国語大学語劇祭が昨年12月25、26日に神戸アートビレッジセンターにおいて行われました。語劇祭とは、本大学の英米語劇団、Ⅱ部英米語劇団、中国語劇団、イスパニア語劇団、ロシア語劇団の5劇団がそれぞれの言語を用いて2時間の劇を上演するという伝統行事です。多くの方々のご支援の元、台本選びから舞台セット、音響に至るまで学生自身の手で作り上げ、今年も多くのお客様にご来場いただきました。

私たちロシア語劇団は今回、エフゲニー・シュバルツ作の「Обыкновенное Чудо ～不思議でない奇跡～」を上演しました。

物語のあらすじは、「とある山奥に住む魔法使いと奥さん。ある日1人の立派な青年が訪ねてきま



す。実は彼は熊で、昔、魔法使いの悪戯で人間に変えられてしまったのです。彼が元の姿に戻る唯一の方法は王女様にキスをしてもらうこと。そこへ魔法で呼び寄せられた王様ご一行が到着します。我儘で気分屋の王様の悩み、それは王族でありながら世の中の穢れをまったく知らない、純真無垢な王女様のことでした。熊はそうとは知らず、王女様と出会います。こんなに素敵なお姫様が王女様なはずない、と。すぐに惹かれあう2人・・・しかし彼女が本当に王女様だとわかってしまったからさあ大変！熊は逃げ出し、王女様も後を追って出て行ってしまいます。3日後、男装して獵師の弟子となった王女様と熊は再会し、2人は些細なことから喧嘩、決闘までして、挙句の果てに王女様は庶務大臣と結婚するとまで言い出す始末。耐えられなくなった熊は王女様に自分の秘密を明かします。絶望した王女様は熊に永遠の別れを告げ、床に臥せってしまいます。このままでは王女様が死んでしまう。そんな時に再び現れた熊。残酷な結末と知りながらも、互いに対する愛ゆえに2人は口づけを交わします。ところが熊は人間の姿のまま。2人の愛が魔法を打ち破ったのです。『互いに信じあい、愛しあい生きていくこと、当たり前のことだけど、これこそが奇跡なんだ。』という魔法使いの台詞で締めくくられる、笑いあり、涙ありのロマンチックなおとぎ話でした。

9月後半から練習を始め、最初は日本語で台詞を読みながら動きをつけ、一通り動きがついたところでロシア語の

台詞に切り替えます。今年はキャストの半分が役者初体験で、初めは台本を読むだけで必死だった人も、だんだんと自分の役にはまり



込み、その人らしい演技ができるようになりました。また、大道具は男手が少ない中、OBの先輩方に手伝って頂きながら作成し、劇に一層の花を添えてくれました。音響、照明、字幕といった劇に欠かせない仕事も、全員で意見を出しあい、よりよいものとすることができました。その一方、上演時間の2時間に劇が収まらず、直前まで台本のカットをしなければならなくて、折角みんなで練習した思い入れのある場面を削らなければならなかったのはとても苦しいことでした。

今年特に力を入れたのは、台本には描かれていない登場人物たちの裏ストーリーでした。私たちはこれを「キャラ分析」と呼び、それぞれの役者が自分の役の今までの人生や劇中での感情の変化など、細かく設定しました。これにより、それぞれの役の性格が際立ち、見ていて飽きない劇にすることができたと思います。

そして本番では大きな事故もなく、みんないつも以上に生き生きと劇を上演することができました。上演後、観客席から大きな拍手と「とてもよかった、2時間があっという間だった」とのお言葉を頂き、団員一同、大きな達成感と感動に包まれました。語劇



祭は今年も12月24、25日に神戸アートビレッジセンターにおいて行われます。字幕付きですのでどなたでも楽しむことができます。どの劇団も趣向を凝らした劇を作り上げていますので、ご都合がよろしければ、ぜひ足を運んでみてください。

<おわり>

JICのロシア語留学

JICではこの22年間で2,200名以上の留学生をロシアへ送り出しています。22年を通して改善を重ねてきた研修ラインナップは、1週間のホームステイ研修から10ヶ月間の長期留学までバリエーション豊か。

きっとあなたにピッタリのプランが見つかるはずです。

ロシア留学って難しそう？ 大変そう？

いいえ、そんなことはありません JICにお任せ下さい！

ロシアだって普通に留学できるんです。

お問い合わせは

JIC 国際親善交流センターまでお気軽にどうぞ！





祝、連載開始 2 周年！などと書くところとした長編みたいですが、これでまだ 8 回目です。本誌の発刊ペースは、遅筆の言い訳にはまことに都合がよいものだなあと、いささか見当違いなありがたみを感じております。

ヴェルホヤンスクの 2 日目、朝食は以下のとおりでした。

■2009 年 1 月 14 日の朝食

1. 米のミルク粥 (молочный рисовый)
2. アラーディとキイチゴのヴァレーニエ (оладьи с малиновым вареньем)
3. パン (хлеб)
4. 紅茶(ミルク+砂糖)、あるいはコーヒー

<メニューの解説>

お粥はロシアの朝食ではよくあるメニューです。甘く味付けされています。アラーディは聞き慣れない方も多いでしょう。これはロシアの丸いパン状の食べ物です。作り方によって見た目にもかなり違いがありますが、ヴェルホヤンスクのホテル「寒極」で出てきたものは、厚焼きのブリヌイのようなぺったんとしたものでした。ヴァレーニエとは、ベリー等の果物を甘く煮込んだもののことで、ジャムのようなのですが、さらりとしています。これもロシア語です。アラーディと合わせると大変美味！パンは、ふつうの白パン(バトン)をスライスしたもの、紅茶、コーヒーも、日本で見るものとほぼ同じものでした。

今日も朝から楽しいヴェルホヤンスク観光の始まりです。まずはどこへ行きましょうか。はい、もちろん、学校です。(そう、また学校！)

ヴェルホヤンスクの学校は我々の宿舎であるホテル「寒極」のすぐ隣にあるので、徒歩であつという間に着きました。もっとも、小さな町ですから、どこであれ近いことには大差ありません。

昨日もそうでしたが、学校の中は集中暖房(アタプレーニエ)が行き届いていて、一步入るともうポッカポカです。廊下にはたくさんの教室が並んでいます。その中のひとつに入ると私達客人(サルダナさん、オオノさん、筆者の 3 人)は、横一列に腰掛けるよう促されました。何だろうと思う間もなく、そこへ 3 人の女子生徒が現れ、それぞれ私達の前に一人ずつ立ちました。来客をもてなす儀式のようです。彼女達は何かを語りかけながら、馬乳酒クムイス(кумыс)の入った木製の杯を順番に差し出します。1 人目は英語で、2 人目はフランス語で、3 人目はヤクート語で。実は、その言葉の細かな内容は聞き漏らしてしまったのでわかりません。面目ないことですが、彼女達がびっくりするほど美しいドレスをまとっていたもので、注意を奪われてしまったのです。これは民族衣装の晴れ着だそうです。真っ白な、雪の女王のようで、それでいて 3 人とも違うデザインで、細部まで手の込んだ装飾が凝らされています。これはすごい。



何がすごいって、このヴェルホヤンスクでこんな余裕たっぷりの文化的生活が営まれていることです。昨日、2つの博

物館の本気っぷりに驚かされたばかりでしたが、それどころじゃない。この学校生活こそが、極限の地の文化の最先端をリードしているに違いありません。

直感は当たりました。このあと、さまざまな授業風景を見学するうちに、この学校の教育環境は、ちょっとした都会の学校のそれにも劣らないばかりか、むしろ凌駕さえする水準だと判ってきたのです。

10 年生「a」クラスの生物の授業では、植物の講義中でした。7 年生「6」クラスの地理の授業にもお邪魔しました。どちらの教室でもパソコンとプロジェクターをふんだんに駆使していて、生徒も活発にプレゼンテーションしています。現代においては、児童生徒がパソコンの操作に習熟している光景など、珍しくありません。こんなことに感心してはかえって失礼でしょう。けれど、やっぱりショッキングでした。特別な町ヴェルホヤンスクまではるばるやって来たのに、さも当たり前顔をして、ふつうのことをやって見せられると、一瞬、人生観がぐらついたような気になります。

11 年生「6」クラスは体育の授業中で、ちょうど男子生徒たちが、不思議なスポーツをしていました。ヤクート独自の競技だそうです。そのいくつかを実演してもらいました。

■ヤクートの競技

・クイリイイ
(кылыы)

このカタカナ表記が本来の発音を再現しているとは言い難いですが、お許しください (以下同じく)。これは幅跳び競技

の一種で、11 段跳びです。ルールはどちらか片足のみを使うこと。つまりケンケンで跳びます。10 回連続ジャンプしたら、最後は両足で着地します。

・ウイスタンガ
(ыстанга)

同じく 11 段跳びですが、両足を片方ずつ交互に使って連続ジャンプするルール

です。最後は両足で着地です。

・クオバフ (куобах)

これも同じく 11 段跳びで、両足を同時に使います。最後まで両足で 11 回連続ジャンプします。

・マス・レストリング (мас-рестлинг)

これは変わった競技です。床面に競技者 2 名が向い合わせに座り、すりこ木のような木の棒を互いに奪い合い (引張り合い) ます。つまり力比べです。

・トウトウム エルギール (тутум эргир)

これもかなり変わった競技です。説明してうまく伝わるか自信ありません。単独の競技者が、ブリッジをしながらぐるぐる回転します。ここでいう回転とは、身体の方方向を回転軸としたスピンド、ブリッジの体勢のまま、あおむけになったりうつ伏せになったりと反転を繰り返します。手は直接床面につけず、すりこ木のような棒を 1 本、両手で持って身体を支えとします。棒の位置がずれないように、床面には、くぼみをつけた板を置きます。何回回転できたか、数を競います。

体育の設備は大変充実しています。立派な筋トレ器具がずらりと揃っています。レスリング専用のジムがあるのは昨日も見ましたが、さらにバスケットボールコート 1 面が十



<マス・レストリング>



<トウトウム エルギール>



<レスリングに興じる子供たち>

分収まる広さの、天井の高い体育館もあります。壁にはちよつとソビエトくさいデザインで描かれた五輪のマークが掲げられていました。やるからには、トップ選手を輩出する気で臨む、と当たり前のように考えているみたいです。

だいたい、このヴェルホヤンスクの学校が当たり前と思っていることは、いちいちレベルが高いんです。6 年生「а」クラスの教室では、郷土文化 (НКНЯ: национальная культура народов Якутии) の授業中でした。ロウソクだけを灯した薄暗いところで、シャーマンっぽい服装の先生と、民族衣装っぽい格好の生徒たちが、なにやら執り行っています。これは新年の儀式でタンハ (танха) といい、1 月 7 日から 1 月 14 日まで毎日行うのだそうです。感心するのは、服装の仕立てにも、調度品の造りにも、全く妥協がないし、儀式にはぎこちなさが少しもないところです。受け継いでゆくべき文化を、日常的に学びとっていなければ、こううまくはいかないでしょう。

芸術 (ИЗО) の授業で、その学びの現場を少し垣間見た気がしました。細かなビーズ細工の刺繍や、獣骨、木の細工、絵画など、いずれも伝統手工芸において重要と思われる技術の集大成がそこにありました。さっきから目にしている衣装だとか調度品をこしらえる基本的素養は、まさにこの場で傳承されているところだったんです。

さて、今度は講堂に案内されました。そう、講堂があるんですよ。日本の学校では、体育館が講堂と兼用できるようになっているところも多いですが (これはこれで合理的発明だと思う)、ロシアではちゃんと別に造られるのが普通です。

中へ入ると、客席は大人たちでいっぱいです。親ばかりでなく、近所の人もいるようです。舞台では子供たちによる劇と踊りの出し物が始まりました。...かわいい。これは本当にかわいい！馬をイメージした白い衣装のグループと、ト

ナカイをイメージした (?) 茶色い衣装のグループ、白い伝統衣装の上級生もいます。これ、全部手作りなのでしょう。

みんなで列になったり輪になったりぐるぐる回ったり...。客席の大人たちはみんなニッコニコです。そりやそうでしょう。こ



<新年の儀式>



<芸術の授業作品>



<講堂で見た素敵な踊り>



<学校新聞の記者たち>

んなすてきな
光景を目の前
にしたら自然
に頬が緩むの
は当たり前。
そしてどうやら、
ヴェルホヤン
スクの学校で
は、こんな出
し物を演じる
のも、当たり
前のうちにす
ぎないよう
です。

学校新聞の
記者だとい

生徒がインタビューに来ました。ヴェルホヤンスクへやってきた目的、日本の学校はどんなところか、日本の子供たちは自分達に似ているか、等々、色々な質問を受けましたが、特に印象に残っているのは次のようなやりとりです。

生徒「世界の寒極にいるという実感はありますか？」

私「いいえ、今のところありません(笑)」

だって、せっかくヴェルホヤンスクまで来たのに、全然寒くないんですからね(ちなみにこのとき、気温は-27℃)。それとも一つ、この学校の持っている、圧倒的な「当たりのチカラ」が、この町の特別な印象をすっかり吹き飛ばしてしまったせいでもあります。あなたたちの学校生活を見ていると、寒極にいることを忘れそうになるんですよ…。万感込めて、「いいえ」と言ったんですが、きつとうまく伝わらなかったでしょう。彼らにとっては全部当たりのことを披露しただけなんですから。まったく何てすばらしい。

なお、このインタビューから執筆された学校新聞の記事は、インターネットの学校公式サイト上で公開されていますので、誰でもご覧になれます。これくらい、当たり前ですよー。

学校公式サイトトップ <http://verkhoyan.narod.ru/>
記事 URL
<http://verkhoyan.narod.ru/gas/gas5.files/Page381.htm>

この学校の正式名称は、「ノヴゴロドフ名称ヴェルホヤンスク中等普通学校(ВЕРХОЯНСКАЯ СРЕДНЯЯ ОБЩЕОБРАЗОВАТЕЛЬНАЯ ШКОЛА ИМЕНИ М.Л. НОВГОРОДОВА)」といいます。校長のユムシャノヴァ先生にこの学校の概要を伺って、改めて驚いたのですが、なんと、生徒数は約300人だそうです。多いとは思っていましたが、そんなにいるとは。全11学年、2クラスずつで、計22クラスあり、1年生から5年生までは、ヤクート語コースとロシア語コースが分かれています。6年生以上では統一されているそうです。(ちなみに、ロシアの教育制度では、1年生から9年生までが義務教育で、日本での小、中学校に相当します。10、11年生は中等教育で、こちらは日本での高校に相当します。)



<お家へ帰ろう>

それにしても、ヴェルホヤンスクの総人口が1,300人程度であることを思えば、児童生徒数300人もの学校を抱えるこの町の若年層比率の高さは大したものです。日本では、ほとんど全ての社会単位が、若さを不可逆的に失いつつありますが、ここでは事情が異なるようです。たくさんの子供たちの下校風景のにぎやかなこと。そしてぽつり

ぽつりと家路につく姿のあたたかいこと！もはや自然に、あたたかいなんて言葉が出るほど、寒極に込めた期待は裏切られっぱなしです。

この後、私達は太陽をみるのです。

<つづく>

※掲載写真は全て北海道新聞社大能記者による撮影

2011年4月 JIC東京ロシア語講座 前期 全17回 途中入講可能!

- <入門> 月曜 19:00-20:30 ゼロからのスタート! 1年間かけてロシア語の基礎文法を勉強します。
- <初級> 火曜 19:00-20:30 ロシア語のやさしい読み物を読みながら、会話にも慣れていきます。
- <中級> 水曜 19:00-20:30 身近な出来事などを題材に、ロシア語の表現力を高めていきます。
- <文学講読> 木曜 19:00-20:30 小説を中心に授業をすすめます。学習歴3年程度以上のロシア語力の方対象。
- <時事会話> 金曜 19:00-20:30 新聞・ニュース・物語などを題材に総合的なロシア語力を高めることが目標です。
- <使える会話①> 土曜 10:45-12:15 ビデオを使って、より高いレベルのロシア語力を目指します。上級の方対象。
- <使える会話②> 土曜 12:30-14:00 ビデオを使って、よく使うロシア語を学びます。初級～中級の方対象。

お気軽に
お問い合わせ下さい!

受講料:全17回 51,000円
定員:1クラス4～8名程度
会場:国際親善交流センター 東京オフィス
(東京・四谷)
お問い合わせ
ロシア語講座東京 TEL:03-3355-7287

2011年4月 JIC大阪ロシア語講座 前期 全15回 レッツ・トライ!

- <入門> 水曜 19:00-20:30 ゼロからのスタート! アルファベットや挨拶をはじめ、ロシア語の基本を勉強します。
- <初級> 木曜 19:00-20:30 ロシア語の文法をひととおり学びながら、会話も少しずつスタート。
- <中級> 金曜 19:00-20:30 会話のバリエーションを増やしましょう。総合的なロシア語力アップが目標です。
- <上級> 月曜 19:00-20:30 新聞を読んだりディスカッションをしたりします。会話力を磨きましょう。

受講料:全15回 35,000円
定員:1クラス5～10名程度
会場:国際親善交流センター 大阪オフィス
(大阪・天満橋)
お問い合わせ
ロシア語講座大阪 TEL:06-6944-2315

※人数が定員に達しない場合は開講されないクラスもありますので、予めご了承ください!!

4~7月の予定

- 4月上旬 JIC 長期留学生 出発
- 4月上旬 JIC 東京 ロシア語講座 前期スタート!
- 4月中旬 JIC 大阪 ロシア語講座 前期スタート!
- 5月21日(土) JIC 東京 留学相談会
- 6月11日(土) JIC 東京 留学相談会

最新情報は JIC のホームページに
随時掲載いたします。ぜひご確認ください!!!

◆◆編集後記◆◆

東北・関東大震災から早くも1ヵ月。今でもニュースを見るたび心が痛みます。自然の猛威は人間の力では止める事はできません。ですが、被災した町を復興し、人々に勇気や希望を与えるのは私たち人間なのです。1人ひとりの協力が大きな力となり、被災地の方が1日も早く落ち着いた生活を取り戻せるよう、心よりお祈りしております。
(JIC 東京 白井 真理奈)

~JIC 国際親善交流センターは義援金活動に協力しています~
7/7(木)チャリティコンサート(P.2 参照)
皆さまのご協力よろしくお願いいたします!

みんなはひとりの為に ひとりはみんなの為に
協力すれば乗り越えられる
あきらめるな 頑張れ ニッポン!!!!

* * JIC のロシア語留学・研修 * *

ロシア長期留学9月生・募集中

【期間】2011年9月より10ヶ月

【締切】2011年6月15日

モスクワ国立大学 459,000 円 (授業料 10ヶ月)

サクト・ペテルブルグ国立大学 574,000 円

(授業料 10ヶ月)

ウラジスラフ極東大学 314,000 円 (授業料 10ヶ月)

* 上記の金額以外に別途、寮費、手配料、渡航費用、ビザ代金及び取得手数料などががかかります。



ロシア語グループ&個人研修 (随時募集)

リデン&デンツ スイスの会社出資のロシア語学校

個人・グループレッスン。モスクワとペテルブルグにあり、インターナショナルな雰囲気。初心者より上級者まで。2週間より可能。基本はホームステイ2食付。詳細はパンフレットをご覧ください。



デルジャーヴィン・インスティテュート

全ロシアプーシキン博物館の協力によりペテルブルグに設立された学校で、18世紀の建物内で授業が行われます。アットホームな雰囲気でお勧めです。グループレッスン、1週間より可能。基本はホームステイ2食付。詳細はパンフレットをご覧ください。



ロシア語個人研修 (随時募集)

- ☆モスクワ・ダリパス社 1週間~4週間 (ホームステイ3食付)
- ☆モスクワ大学 2週間~長期 (ホームステイ朝食付/大学寮1人部屋)
- ☆ペテルブルグ大学 1ヶ月~長期 (大学寮2人部屋)
- ☆ウラジオストク極東大学 1週間~長期 (大学寮1人部屋)
- ☆ウラジオストク極東大学 1週間~1ヶ月 (ホームステイ2食付)
- ☆ビジット生活体験コース (ホームステイ3食付)
- ☆外国語教育センターGEO (ホームステイ2食付)

◆ロシア留学旅行相談 (東京・大阪オフィス◆)
ロシア留学・旅行のお問合せ・ご相談に応じます。
お気軽にお越しください。

東京事務所 平日 10-18時 大阪事務所 平日 10-18時
※事前にご予約ください

留学・研修各種パンフレットは JIC へ
ご請求ください。留学・旅行相談お気軽に!

~Jクラブ (JIC友の会) のご案内~

JIC インフォメーションを年4回、また JIC のイベント案内をもれなくお届けします。
ご希望の方には入会案内をお送りいたしますので、ご連絡ください。会費は無料です。
国際親善交流センター